

岡山県感染症週報 2014 年 第 49 週 (12 月 1 日～12 月 7 日)

岡山県は『インフルエンザ注意報（流行シーズン入り）』を発令しました（12 月 11 日発令）
岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

◆2014 年 第 49 週（12/1～12/7）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 48 週 2 類感染症 結核 3 名（40 代 女 1 名、50 代 女 1 名、80 代 男 1 名）
5 類感染症 アメーバ赤痢 1 名（50 代 男）
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名（80 代 女）
第 49 週 2 類感染症 結核 3 名（20 代 女 1 名、70 代 男 2 名）

■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で 104 名（定点あたり 0.44 → 1.24 人）の報告があり、前週より増加しました。
○感染性胃腸炎は、県全体で 705 名（定点あたり 11.02 → 13.06 人）の報告があり、前週より増加しました。
○RS ウイルス感染症は、県全体で 115 名（定点あたり 1.56 → 2.13 人）の報告があり、前週より増加しました。

【第 50 週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 6 施設でありました。（12 月 8～10 日）

1. **インフルエンザ**は、県全体で 104 名（定点あたり 0.44 → 1.24 人）の報告があり、前週より増加しました。注意報発令基準の定点あたり 1.00 人を上回り、流行シーズンに入ったことから、12 月 11 日、岡山県は「**インフルエンザ注意報（流行シーズン入り）**」を発令し、広く注意を呼びかけています。県内の発生状況など詳しくは、「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。なお、岡山県の注意報発令基準は、昨シーズンまで定点あたり 5.00 人でしたが、今シーズンから 1.00 人に変更され、より早いタイミングで注意喚起を行うことになりました。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 705 名（定点あたり 11.02 → 13.06 人）の報告があり、前週より増加しました。地域別では、備北地域（19.25 人）、岡山市（18.64 人）、倉敷市（15.91 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域で前週にひきつづき発生レベル 3 となりました。今週から週報に「**感染性胃腸炎週報**」の掲載を開始いたします。県内の発生状況など、詳しくは「**感染性胃腸炎週報**」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年シーズン 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 115 名（定点あたり 1.56 → 2.13 人）の報告があり、5 週連続で増加しました。過去 10 年間で最も多い状態です。地域別では、岡山市（3.43 人）、倉敷市（3.18 人）、備中地域（2.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。

《インフルエンザの予防接種はお早めに！》

インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、**2 週間程度かかります**。
今年は、昨年より 3 週間ほど早い流行シーズン入りとなっており、早めのワクチン接種をご検討ください。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

定期予防接種対象者

- * 65 歳以上の方
- * 60～64 歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↑	★	RSウイルス感染症	↑	★★★★★★
咽頭結膜熱	↑	★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★★★★
感染性胃腸炎	↑	★★	水痘	↑	★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	↓	★
突発性発疹	↓	★	百日咳	↓	
ヘルパンギーナ	↓	★	流行性耳下腺炎	↓	★
急性出血性結膜炎	↑	★	流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	↑	★	無菌性髄膜炎	↑	
マイコプラズマ肺炎	↑	★	クラミジア肺炎	↑	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→				

【記号の説明】 ・前週からの推移： ↓ : 2 倍以上の減少 ↓ : 1.1～2 倍未満の減少 → : 1.1 未満の増減

↑ : 1.1～2 倍未満の増加 ↑ : 2 倍以上の増加

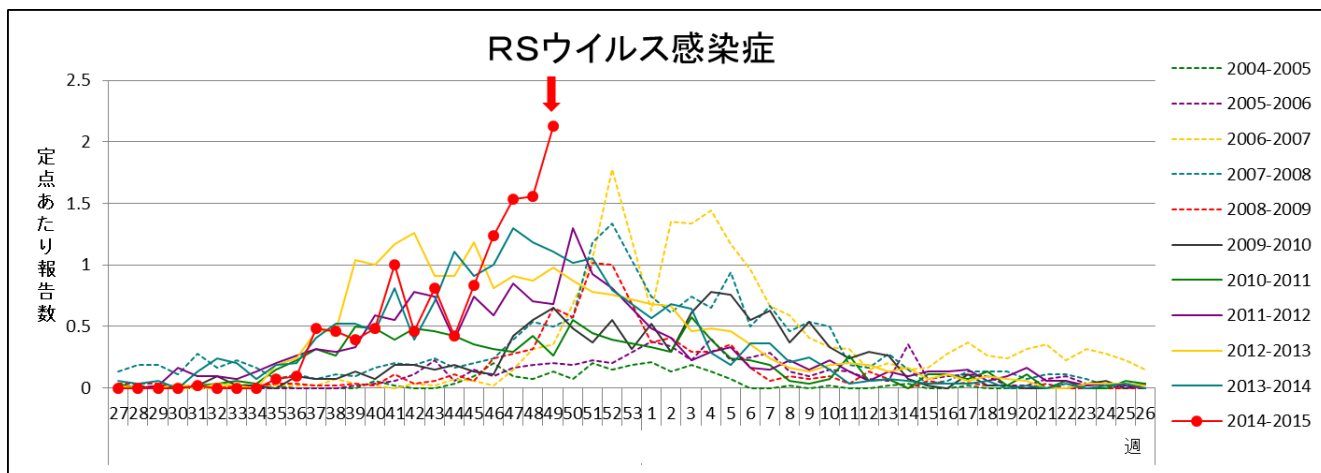
・発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

今週の注目感染症 RSウイルス感染症

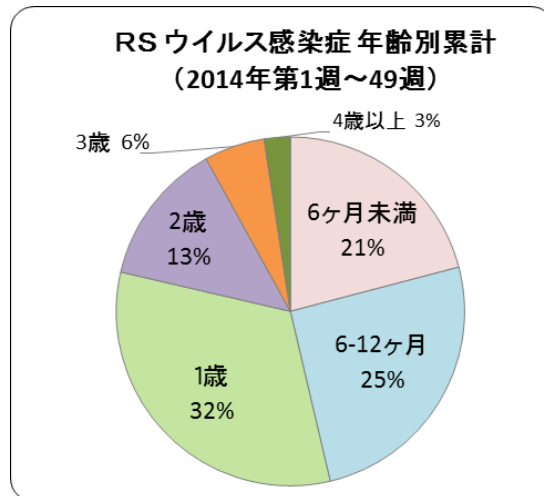
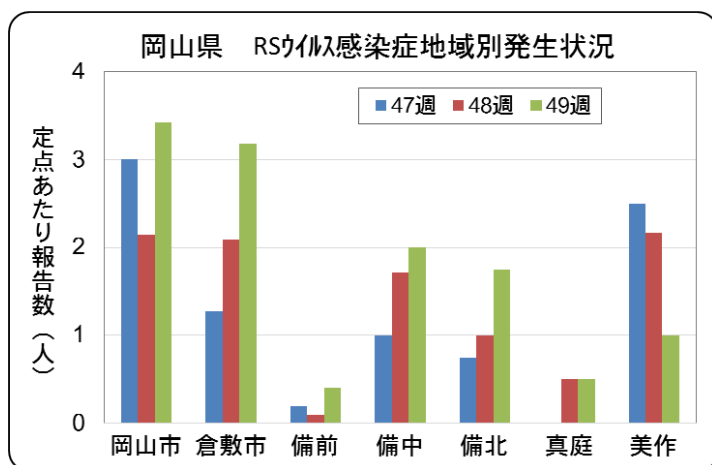
【岡山県の発生状況】



※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週～翌年 26 週を 1 シーズンとしてグラフを作成しています。

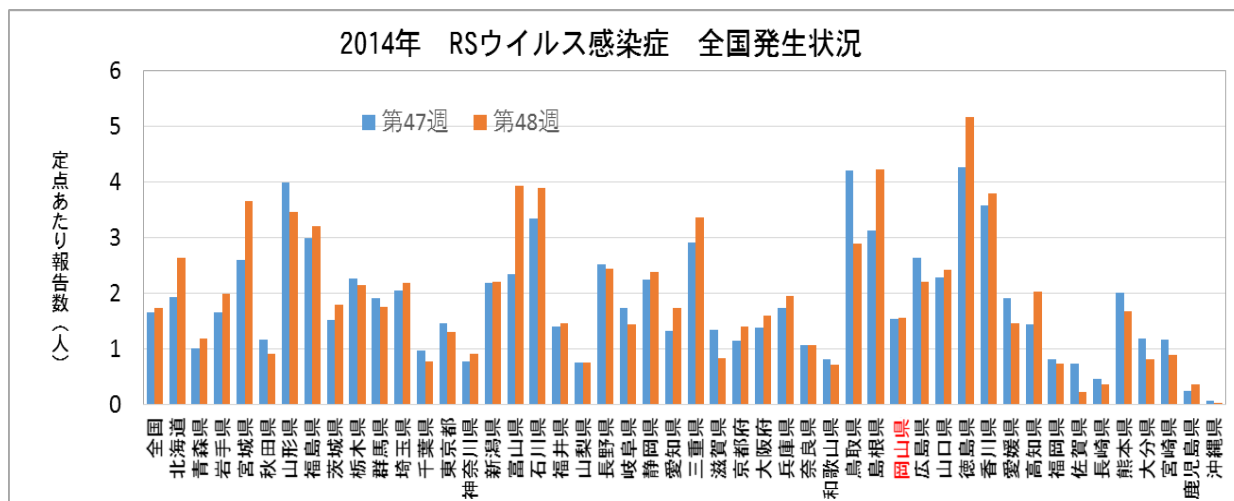
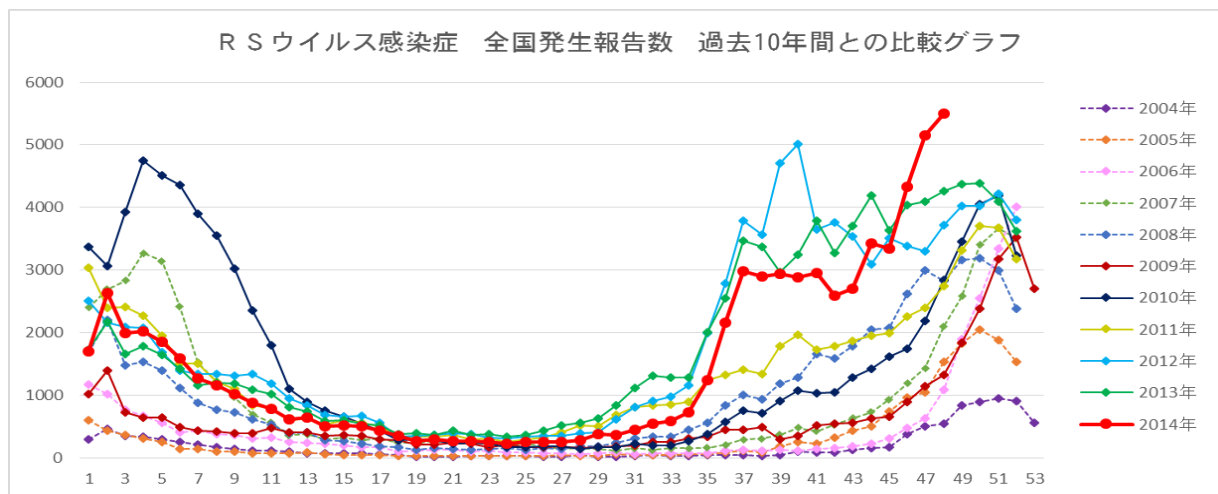
RSウイルス感染症は、県全体で 115 名（定点あたり 1.56 → 2.13 人）の報告があり、5 週連続で増加しています。過去 10 年間でもっとも多くなりました。地域別では、岡山市（3.43 人）、倉敷市（3.18 人）、備中地域（2.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。2014 年第 49 週までの年齢別累計割合では、1 歳未満の乳児が全体の 46%、ついで 1 歳が 32%となっています。

この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがあり、症状が悪化しても平熱か 38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼイゼイとのが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。今後の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めて下さい。



【全国の発生状況】

第 48 週 (11/24～11/30) 全国の患者報告数は、前週より増加しており、過去 10 年間で最も多くなりました。都道府県別では、徳島県 (5.17 人)、島根県 (4.22 人)、富山県 (3.93 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、近隣県でも多くの患者が報告されています。



RSウイルス感染症の予防方法

RSウイルス感染症は、発熱やせきなど風邪のような症状のため、RSウイルスに感染していることに気付かずに、人にうつしてしまうことがあります。

重症化する危険性の高い乳児と接する人は、次のことに注意しましょう。

- ◎ 風邪をひいたらマスクをする。
- ◎ 鼻をかんだ後は、しっかりと手を洗う。
- ◎ 乳幼児が使うおもちゃや手すりなどは、消毒用アルコールで拭く。

[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

インフルエンザ週報 2014 年 第 49 週 (12 月 1 日 ~ 12 月 7 日)

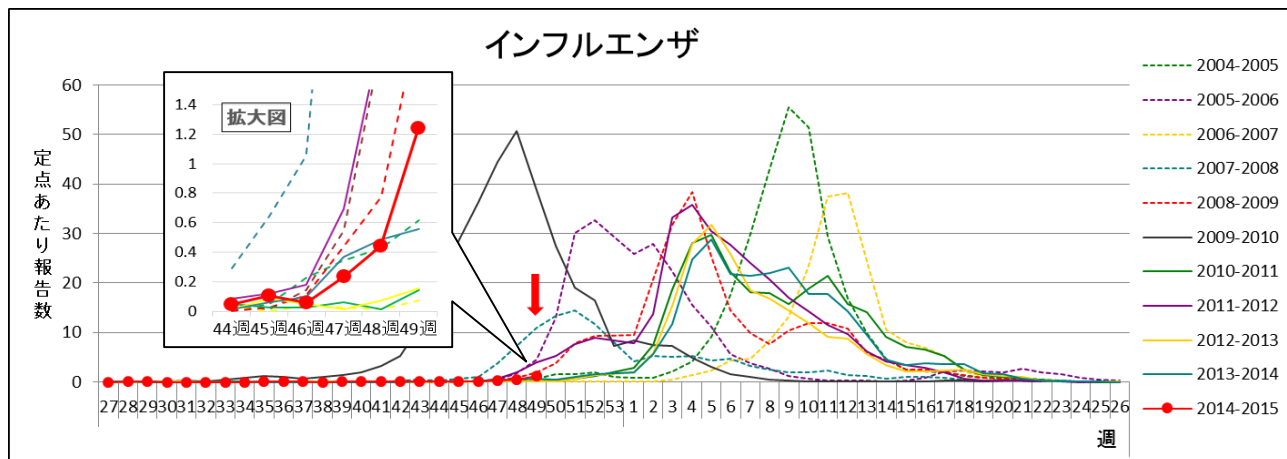
岡山県は『インフルエンザ注意報（流行シーズン入り）』を発令しました（12 月 11 日発令）

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 104 名（定点あたり 0.44 → 1.24 人）の発生があり、前週より増加しました。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は 4 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 50 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 6 施設でありました（12 月 8 日～10 日）。



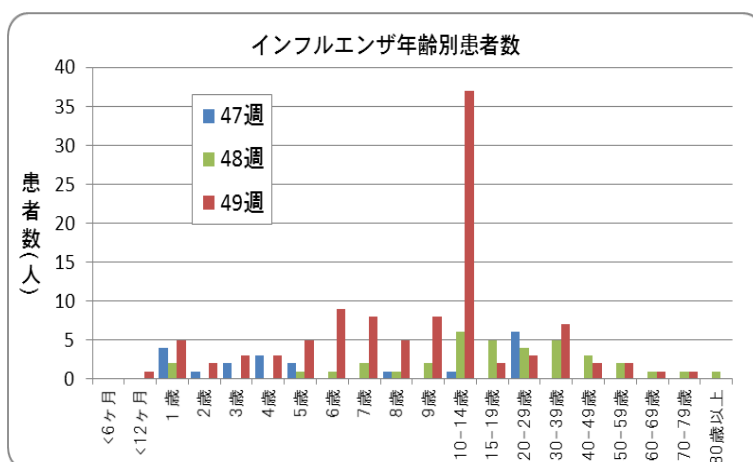
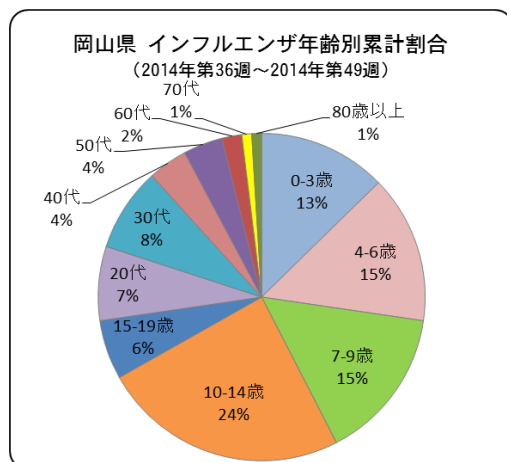
※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 104 名（定点あたり 0.44 → 1.24 人）の発生があり、3 週連続で増加しました（84 定点医療機関報告）。定点あたり報告数が 1.24 人となり、インフルエンザ注意報発令基準の 1.00 人を上まわったことから、12 月 11 日、岡山県は「インフルエンザ注意報(流行シーズン入り)」を発令し、広く注意を呼びかけています。昨シーズン（第 52 週 定点あたり 1.53 人）より、3 週間早く流行シーズンに入りました。なお、岡山県の注意報発令基準は、昨シーズンまで定点あたり 5.00 人でしたが、今シーズンから定点あたり 1.00 人に変更され、より早いタイミングで注意喚起を行うことになりました。

地域別では、岡山市（2.41 人）、備中地域（2.25 人）、倉敷市（1.06 人）、備前地域（0.47 人）で発生が報告されており、県南部での流行となっています。特に、岡山市（0.32 → 2.41 人）、備中地域（0.75 → 2.25 人）では、前週より大きく増加しました。第 49 週の学校等の臨時休業は、岡山市と倉敷市の小中学校 4 施設から報告がありました。第 50 週は、備前地域および備中地域の小学校でも報告されています。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠を取る。』など、感染予防に努めましょう。

1. 年齢別発生状況



今シーズン（2014 年 9 月 1 日～）の年齢別累計割合は、10-14 歳 24%、4-6 歳および 7-9 歳 15%、0-3 歳 13% の順で定点あたり報告数が多くなりました。第 49 週は、小中学生に該当する年齢層で大きく増加しています。幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必

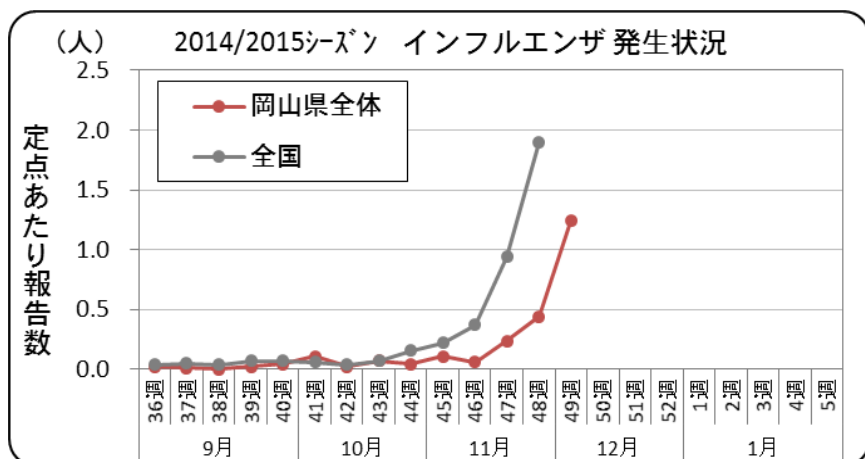
要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

2. 地域別発生状況

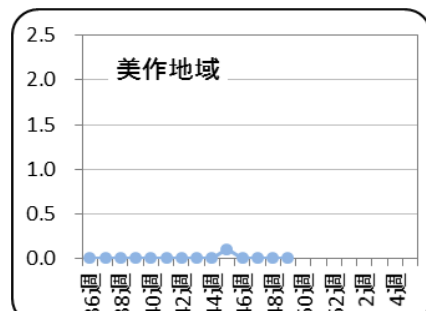
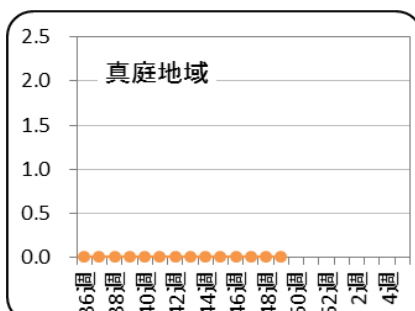
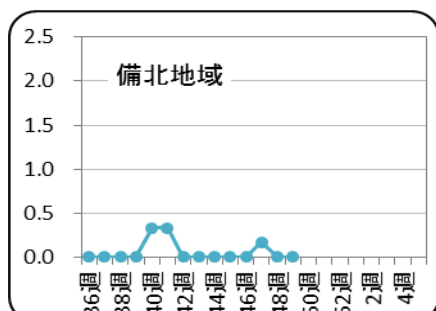
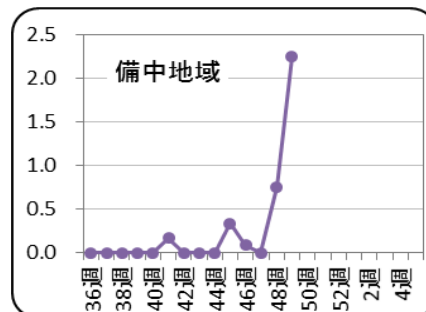
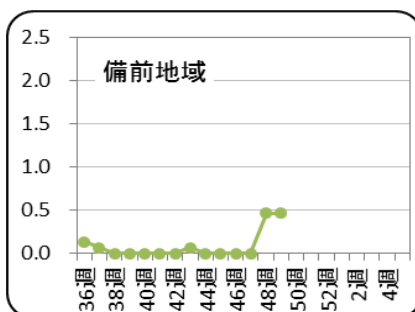
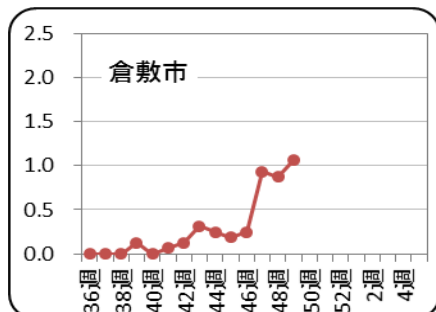
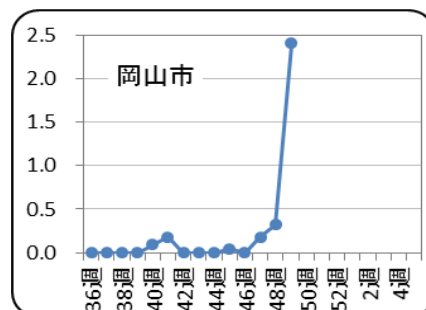
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	104	▲	備 中	患者数	27	▲
	定点あたり	1.24			定点あたり	2.25	
岡山市	患者数	53	▲	備 北	患者数	0	▶
	定点あたり	2.41			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	17	▶	真 庭	患者数	—	▶
	定点あたり	1.06			定点あたり	—	
備 前	患者数	7	▶	美 作	患者数	0	▶
	定点あたり	0.47			定点あたり	0.00	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ▼ 1.1～2倍未満の減少 ▼ 1.1未満の増減 → 1.1～2倍未満の増加 ▲ 2倍以上の増加 ▲



全国集計第48週(11/24～11/30)によると、全国の定点あたり報告数は1.90人となり、全国的なインフルエンザの流行開始の目安となる「定点あたり1人」を初めて上回りました。都道府県別では、岩手県(10.52人)、福島県(6.41人)、埼玉県(5.05人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、東日本を中心に流行しています。

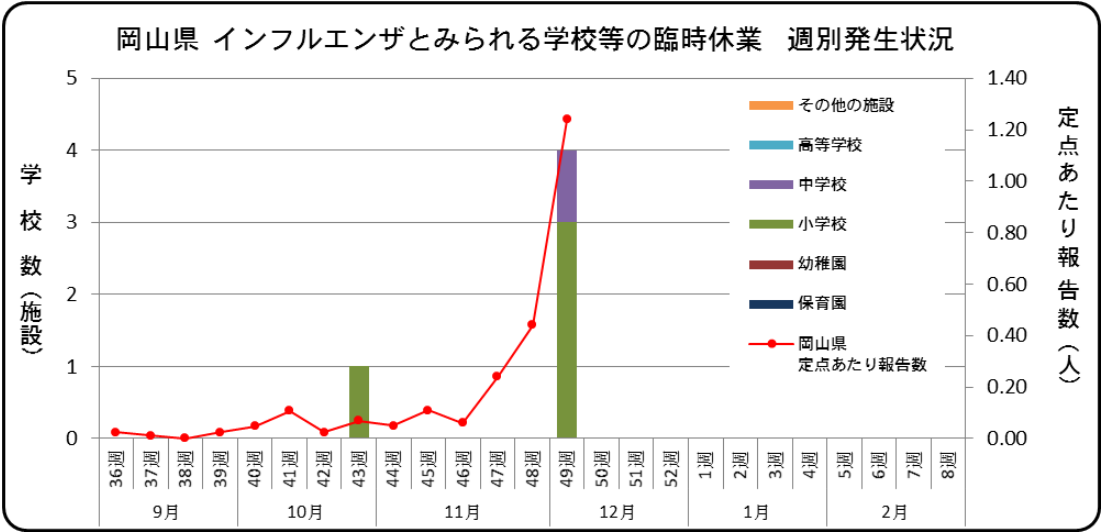


3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が4施設でありました。

【第49週 臨時休業施設数】

▽岡山市 3 ▽倉敷市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	108	119	80	90	4	5	—	—	—	—	4	5	H26.10.21
岡山市	89	89	64	64	3	3	—	—	—	—	3	3	H26.12.1
倉敷市	19	30	16	26	1	2	—	—	—	—	1	2	H26.10.21
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

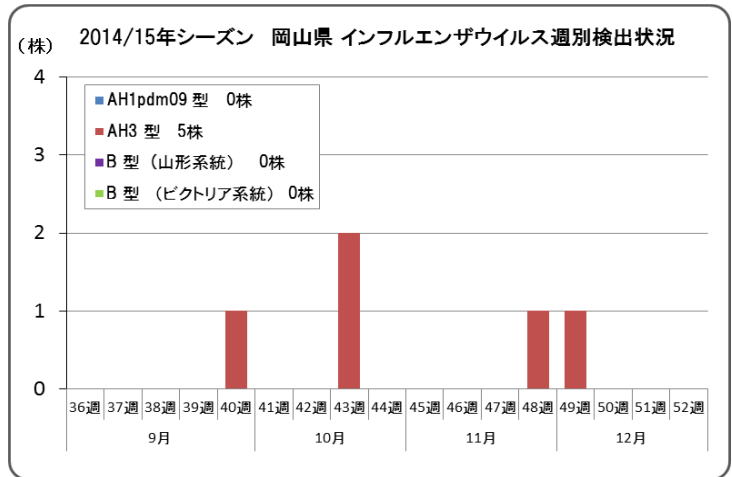
第49週：4施設 累計：5施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	3	4	1	1	—	—	—	—

4. インフルエンザウイルス検出状況

第 49 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3 型が 2 株でした。今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 5 株（100％）となっています。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型 93％、B 型 4％、AH1pdm09 型 3％の順に多く検出されています。（平成 26 年 12 月 10 日現在）



[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)\)](#)

【今シーズン第 49 週までの判明分】

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第40週（ 9/29～10/ 5）	2014/9/29	岡山市	40代	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第43週（10/20～10/26）	2014/10/21	倉敷市	小学生	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第43週（10/20～10/26）	2014/10/21	倉敷市	小学生	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第48週（11/24～11/30）	2014/11/28	岡山市	30代	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第49週（12/ 1～12/ 7）	2014/12/1	岡山市	小学生	男

《インフルエンザの予防接種はお早めに！》

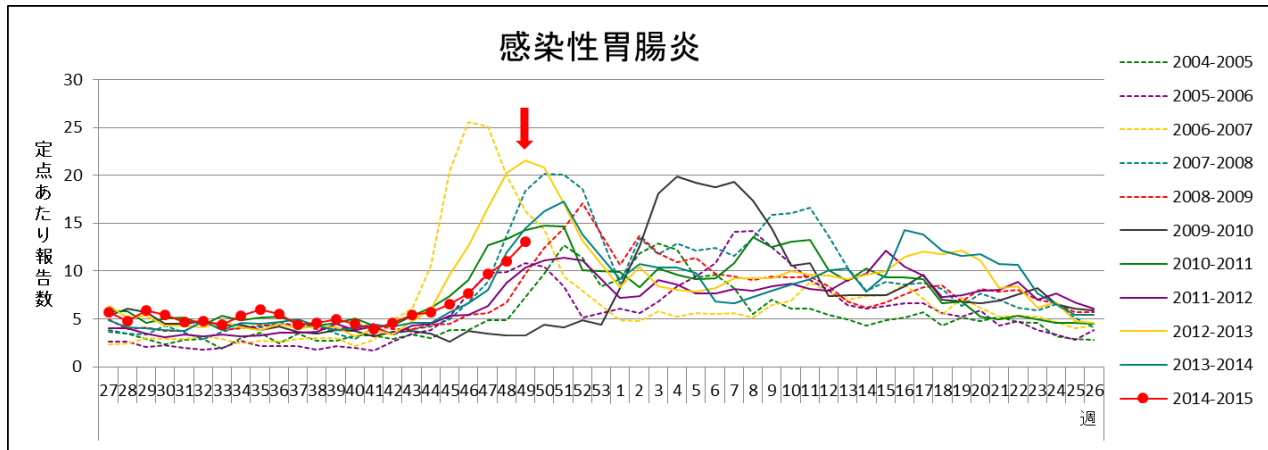
インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、2 週間程度かかります。今年、昨年より 3 週間ほど早い流行シーズン入りとなっており、早めのワクチン接種をご検討ください。

予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。また、年により流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

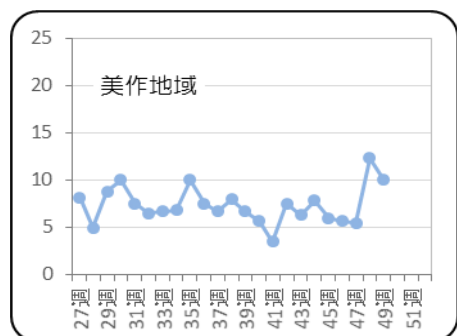
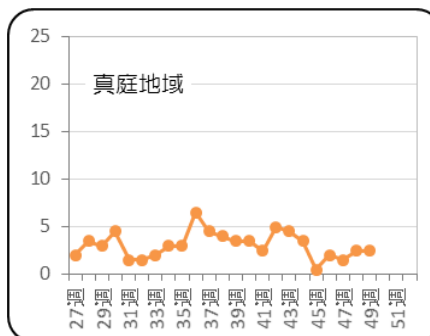
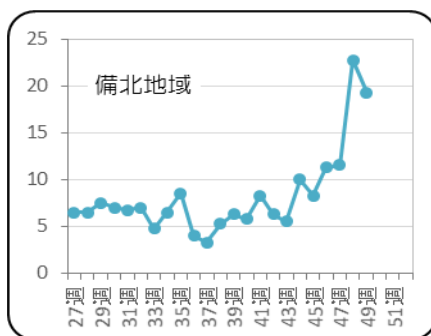
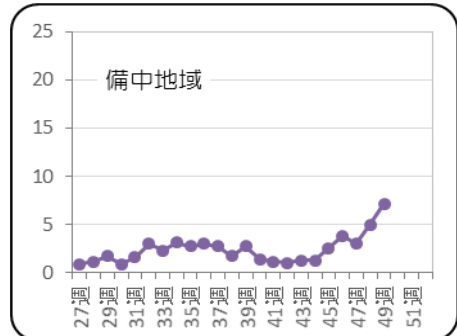
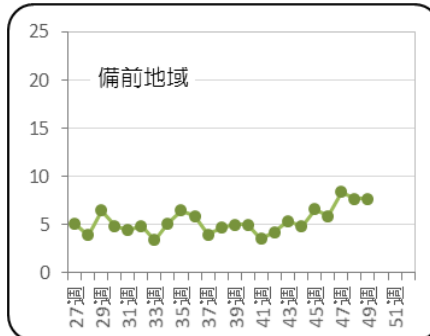
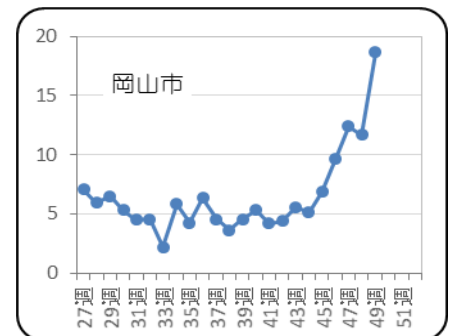
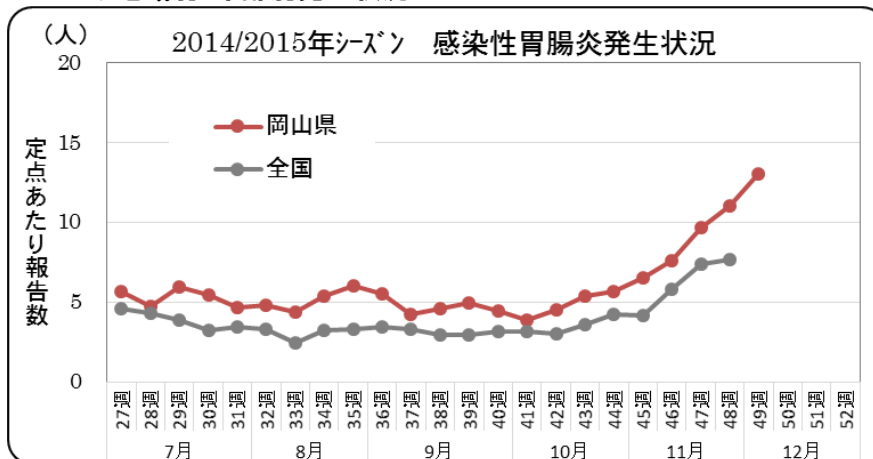
感染性胃腸炎週報 2014 年 第 49 週 (12 月 1 日 ~ 12 月 7 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 705 名（定点あたり 11.02 → 13.06 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。



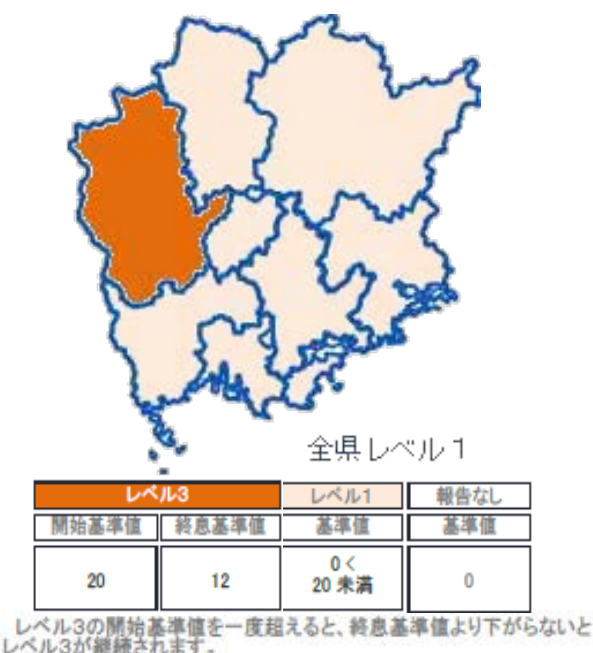
感染性胃腸炎は、県全体で 705 名（定点あたり 11.02 → 13.06 人）の発生があり、前週より増加しました。第 42 週（10/13～10/19）以降、定点あたり報告数の増加が続いています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況

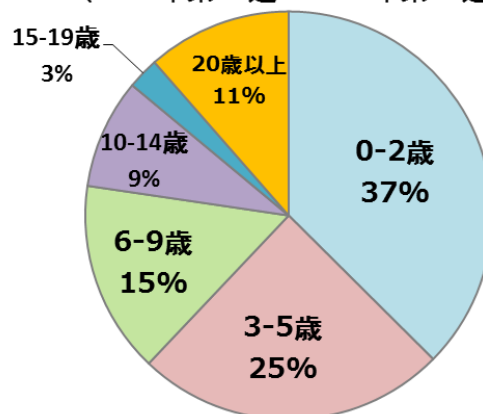


地域別では、備北地域（19.25 人）、岡山市（18.64 人）、倉敷市（15.91 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域では、前週にひきつづき発生レベル 3 となりました。また、岡山市、倉敷市および備中地域で増加がみられました。年齢別累計では、0-2 歳が 37% と最も多く、5 歳以下の乳幼児が全体の 62% を占めています。

感染性胃腸炎感染症マップ 2014 年 49 週



感染性胃腸炎 年齢別累計割合
(2014年第27週～2014年第49週)



◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[食中毒（ノロウイルス）注意報を発令中です（岡山県ホームページ生活衛生課）](#)
[ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省ホームページ）](#)

保健所別報告患者数 2014年 49週 (2014/12/01～2014/12/07)

2014年12月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	104	1.24	53	2.41	17	1.06	7	0.47	27	2.25	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	115	2.13	48	3.43	35	3.18	4	0.40	14	2.00	7	1.75	1	0.50	6	1.00
咽頭結膜熱	23	0.43	3	0.21	13	1.18	—	—	—	—	—	—	1	0.50	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	79	1.46	41	2.93	24	2.18	1	0.10	6	0.86	2	0.50	1	0.50	4	0.67
感染性胃腸炎	705	13.06	261	18.64	175	15.91	77	7.70	50	7.14	77	19.25	5	2.50	60	10.00
水痘	63	1.17	22	1.57	10	0.91	8	0.80	5	0.71	4	1.00	—	—	14	2.33
手足口病	34	0.63	12	0.86	11	1.00	—	—	11	1.57	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	16	0.30	9	0.64	5	0.45	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	5	0.09	1	0.07	—	—	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	3	0.60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 49週

(2014/12/01～2014/12/07)

2014年12月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	104	1.24	53	2.41	17	1.06	7	0.47	27	2.25	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	23	0.43	3	0.21	13	1.18	－	－	－	－	－	－	1	0.50	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	79	1.46	41	2.93	24	2.18	1	0.10	6	0.86	2	0.50	1	0.50	4	0.67
感染性胃腸炎	705	13.06	261	18.64	175	15.91	77	7.70	50	7.14	77	19.25	5	2.50	60	10.00
水痘	63	1.17	22	1.57	10	0.91	8	0.80	5	0.71	4	1.00	－	－	14	2.33
手足口病	34	0.63	12	0.86	11	1.00	－	－	11	1.57	－	－	－	－	－	－
伝染性紅斑	1	0.02	－	－	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	5	0.09	1	0.07	－	－	－	－	1	0.14	1	0.25	－	－	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎	3	0.25	3	0.60	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第49週 2014/12/01～2014/12/07)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	104	－	1	5	2	3	3	5	9	8	5	8	37	2	3	7	2	2	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	115	25	20	39	19	9	1	2	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	23	-	1	3	3	6	3	1	2	1	1	-	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	79	-	-	1	2	6	11	15	11	9	6	5	11	-
感染性胃腸炎	705	6	53	108	87	76	75	47	57	22	29	12	46	15
水痘	63	-	3	6	8	17	13	5	5	1	1	1	2	-
手足口病	34	-	2	18	6	5	1	-	-	1	1	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
突発性発疹	16	-	6	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

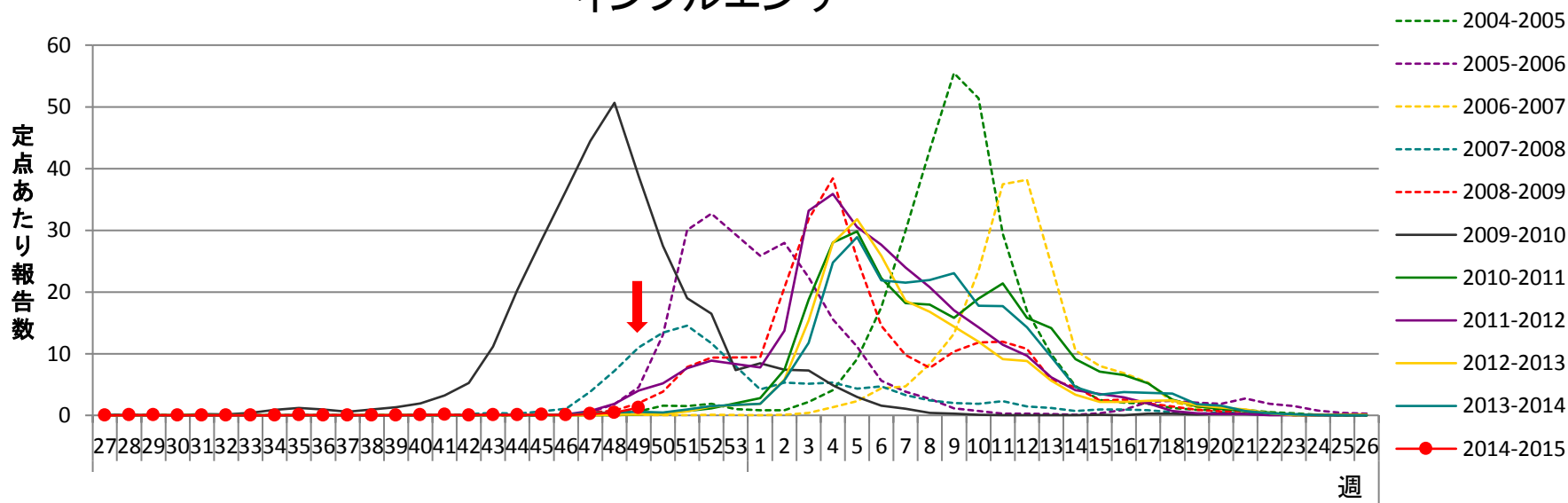
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

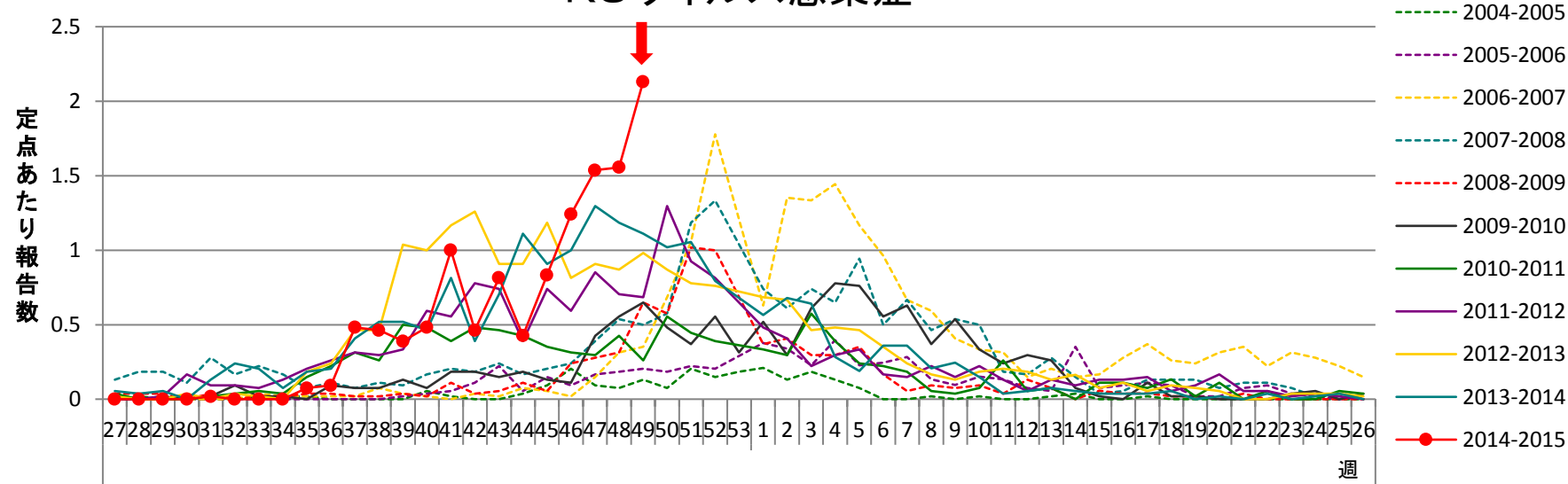
2014 年 49 週

分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	339	358	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	－	68	87
	腸チフス	－	－	1	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	1	－	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	7	5
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	2	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	2	－	デング熱	－	1	－
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	1	日本紅斑熱	－	4	2	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ポツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	1	野兎病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	28	24	レプトスピラ症	－	－	2
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	10	20	ウイルス性肝炎*3	－	7	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	9	－
	急性脳炎*4	－	9	5	クリプトスポリジウム症	－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	3	3	後天性免疫不全症候群	－	20	18	ジアルジア症	－	－	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	20	20
	水痘(入院例に限る。)	－	3	－	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	18	8
	播種性クリプトкокクス症	－	－	－	破傷風	－	1	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	1	1	風しん	－	2	76	麻しん	－	6	3
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－

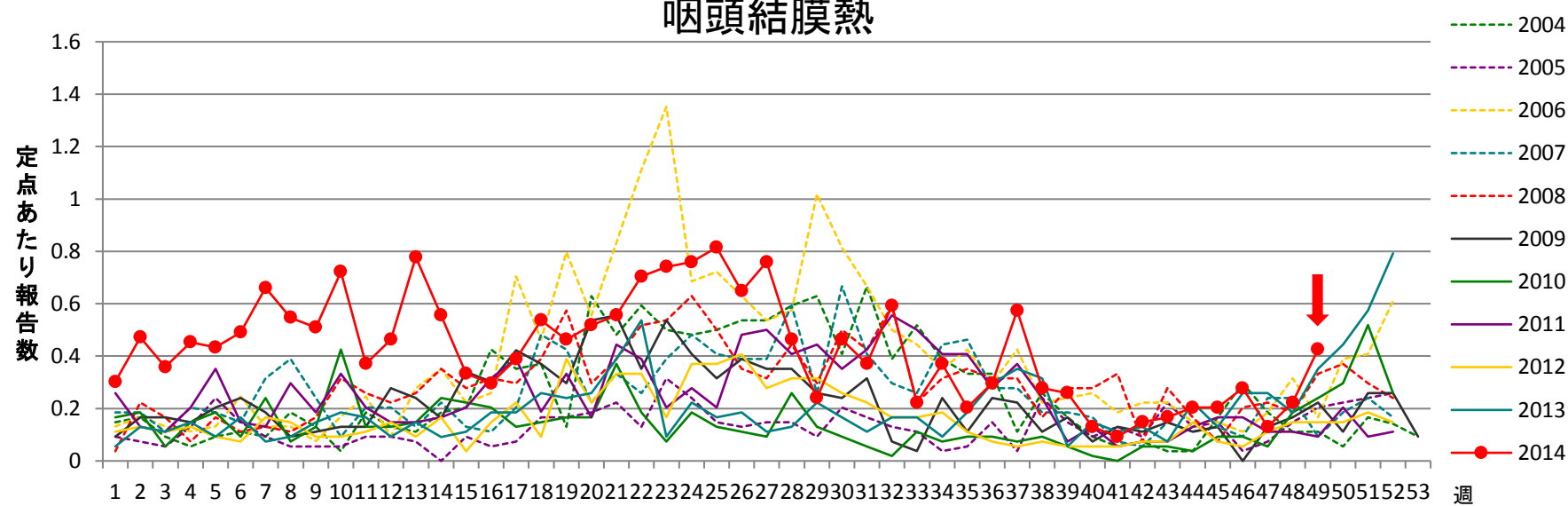
インフルエンザ



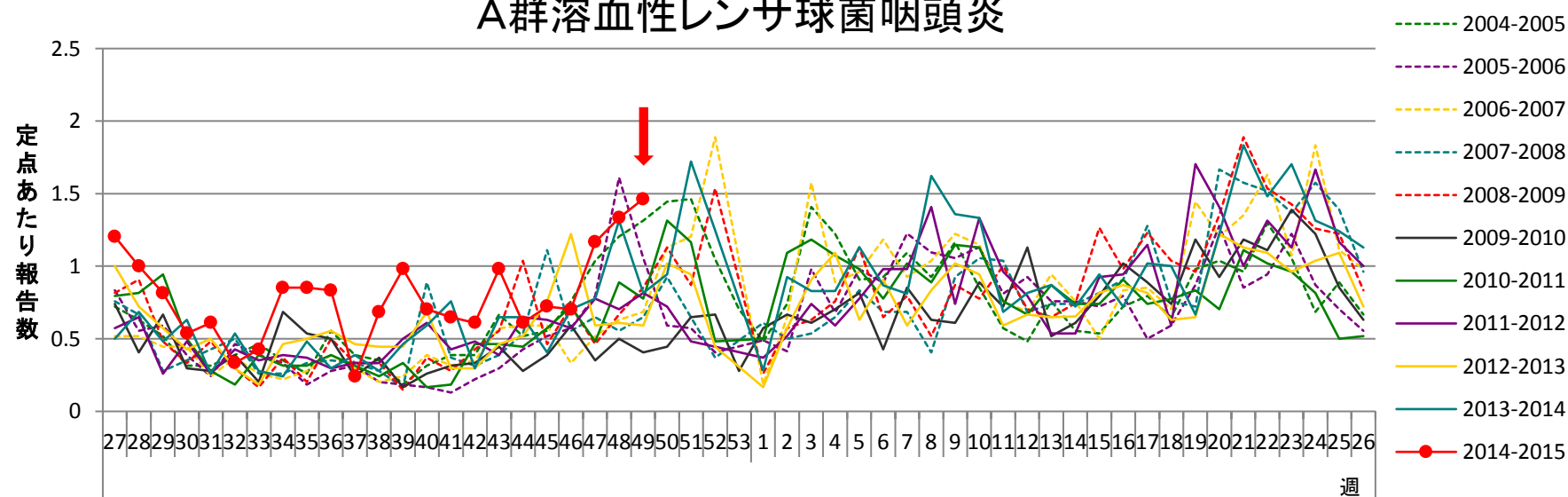
RSウイルス感染症



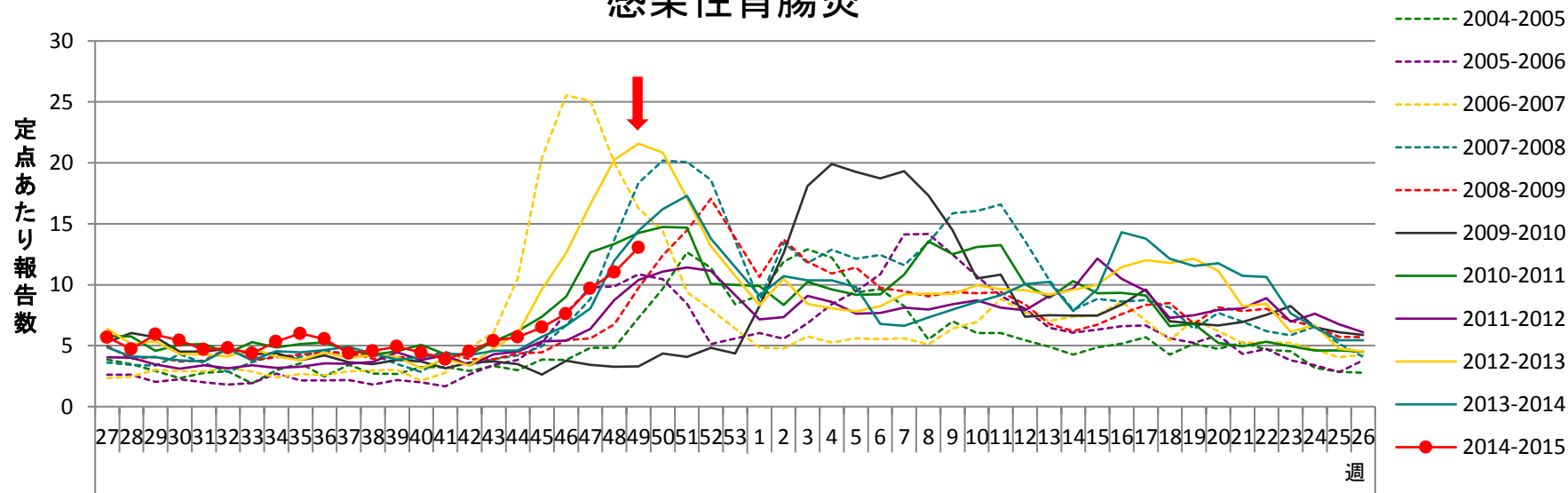
咽頭結膜熱



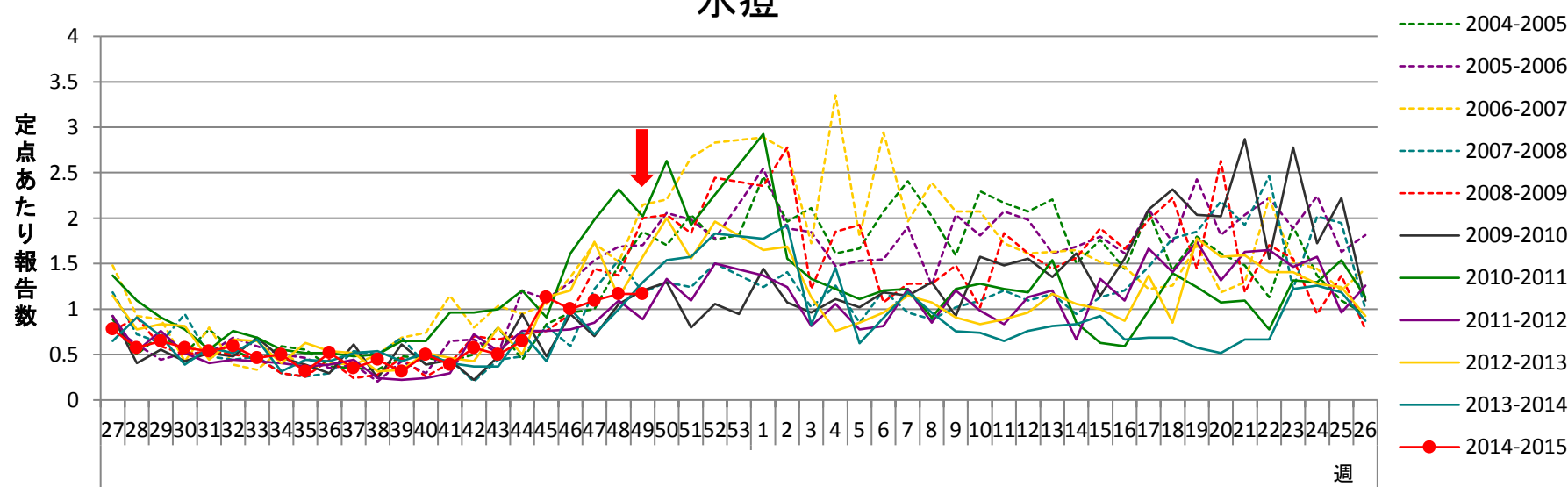
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



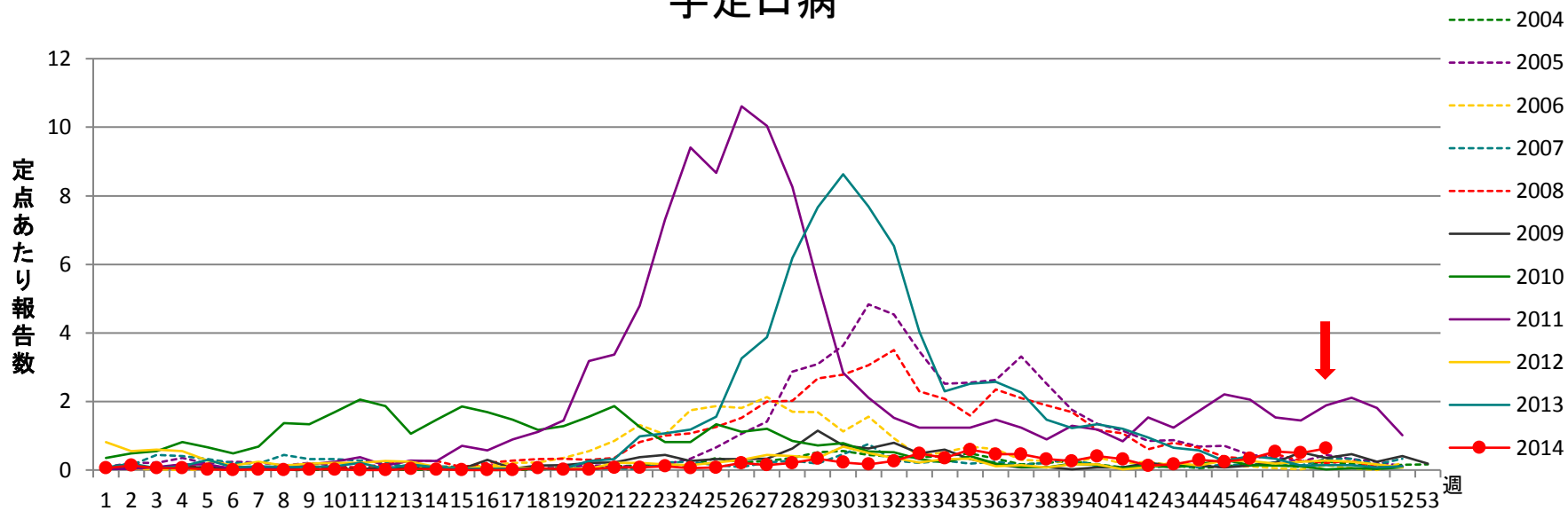
感染性胃腸炎



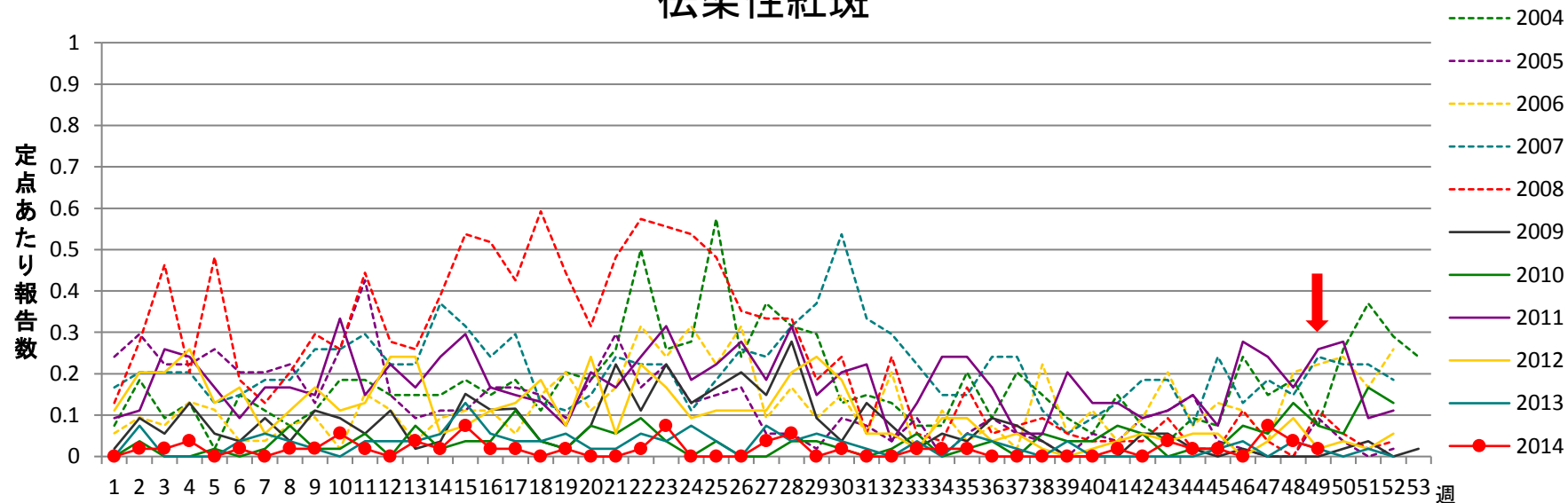
水痘



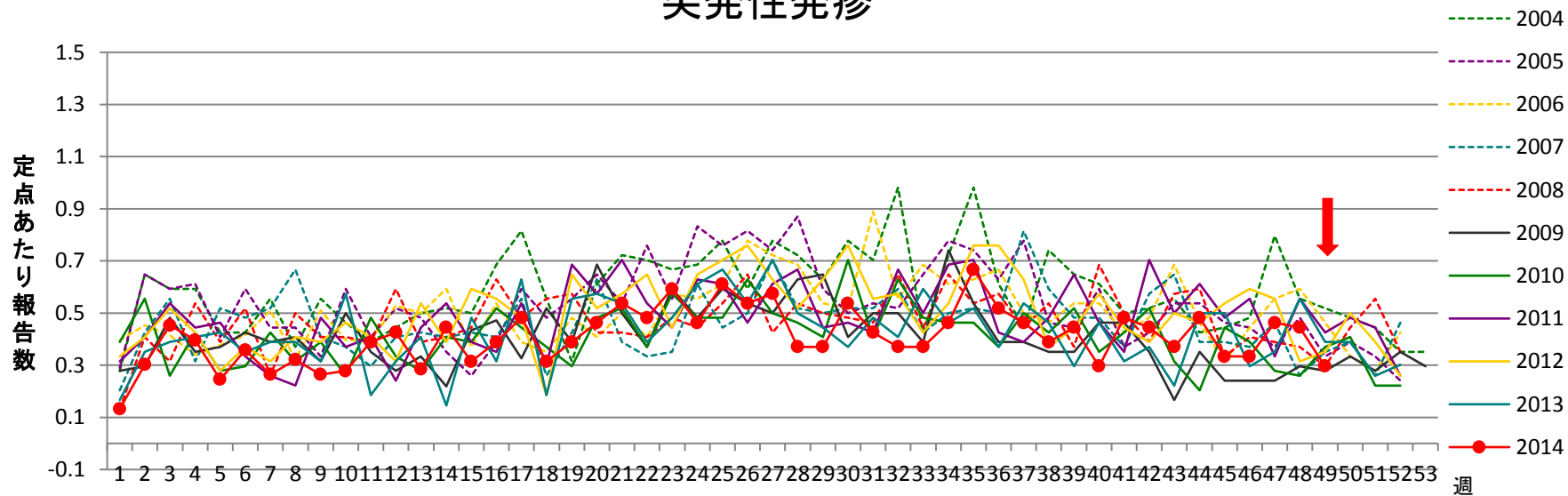
手足口病



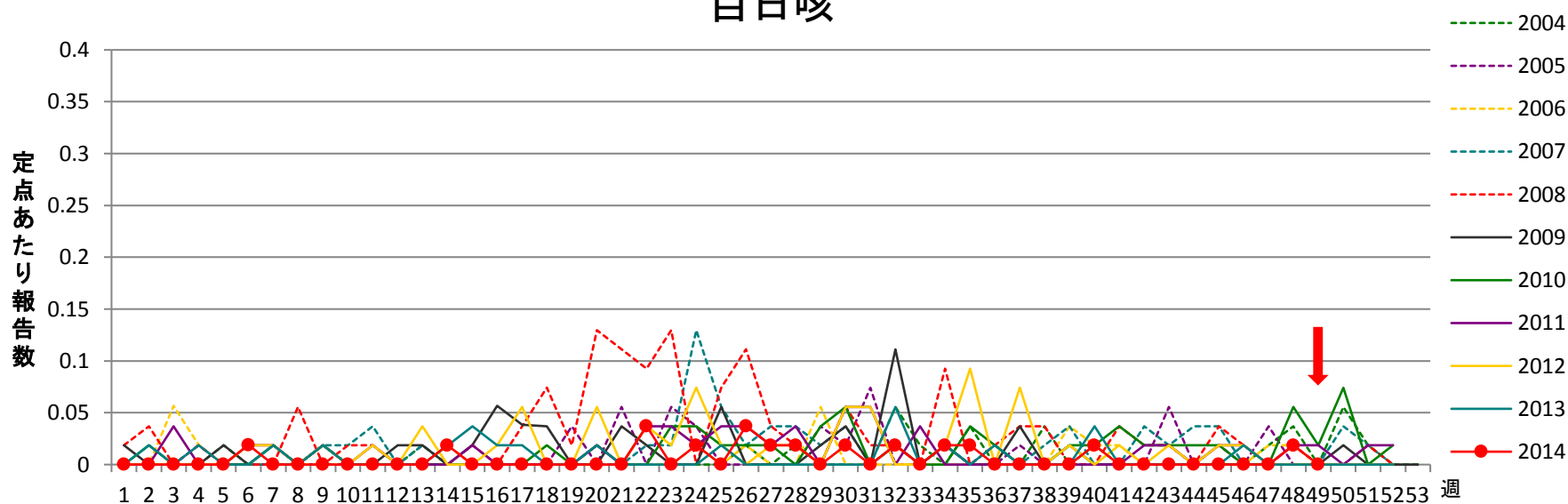
伝染性紅斑



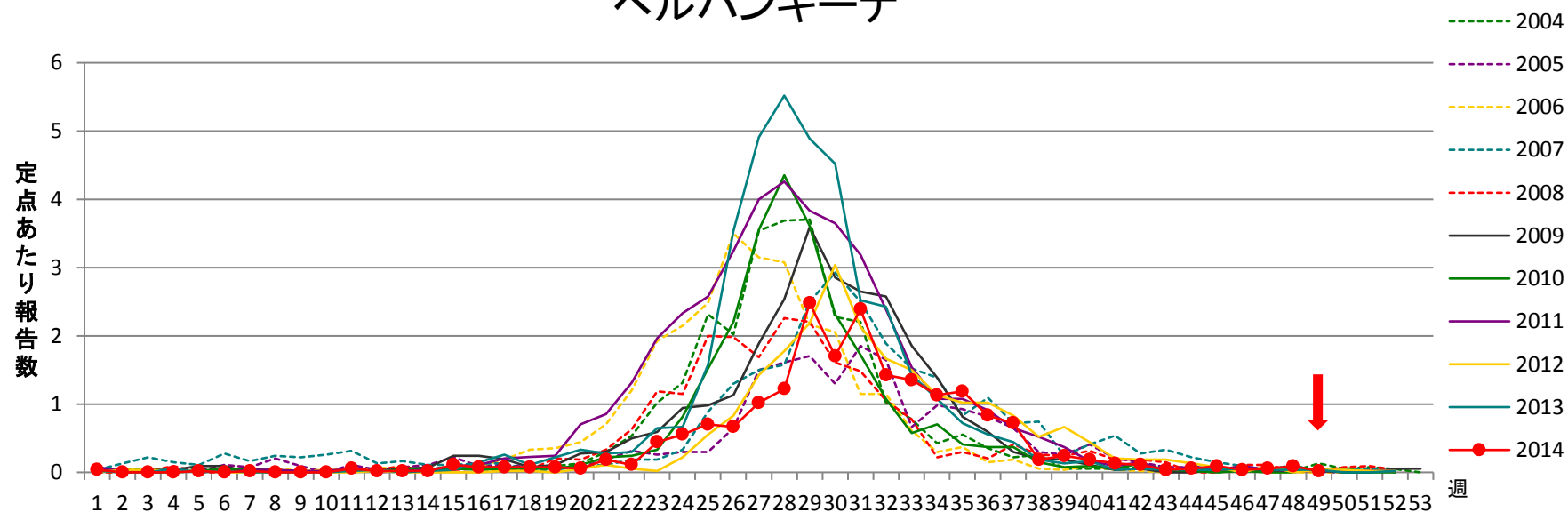
突発性発疹



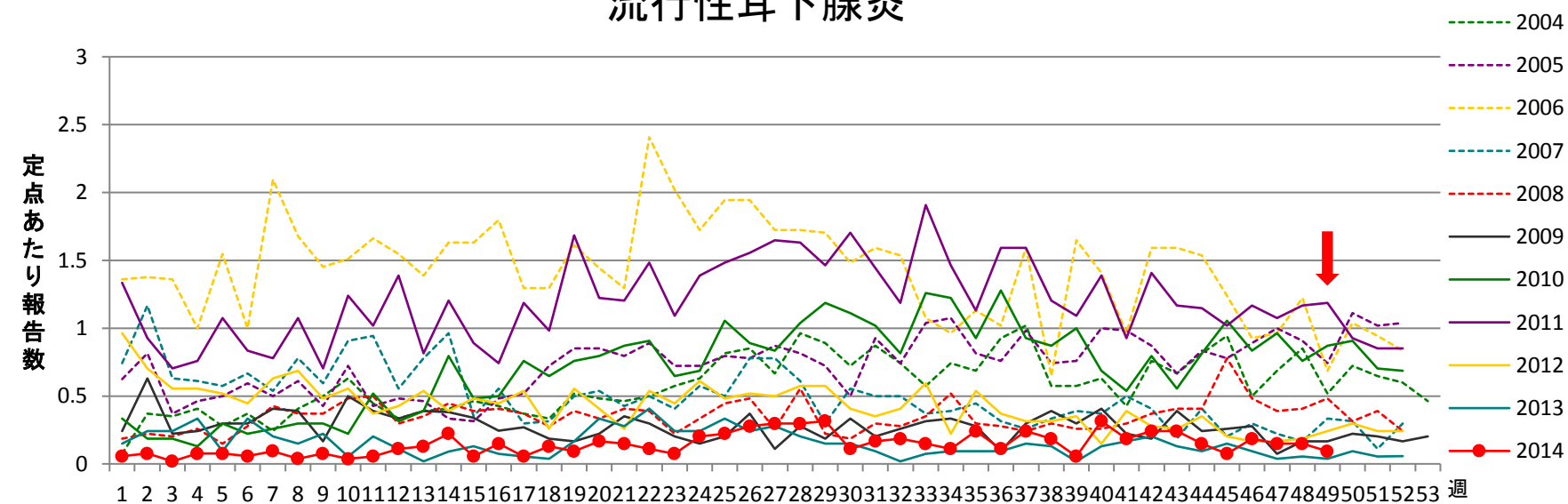
百日咳



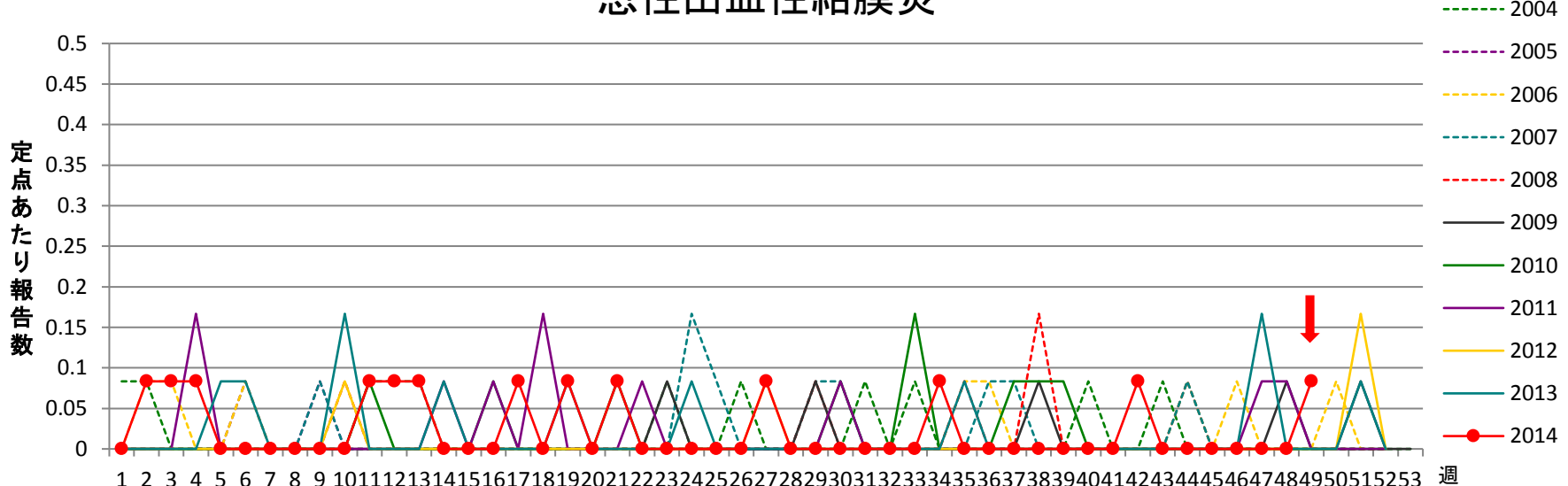
ヘルパンギーナ



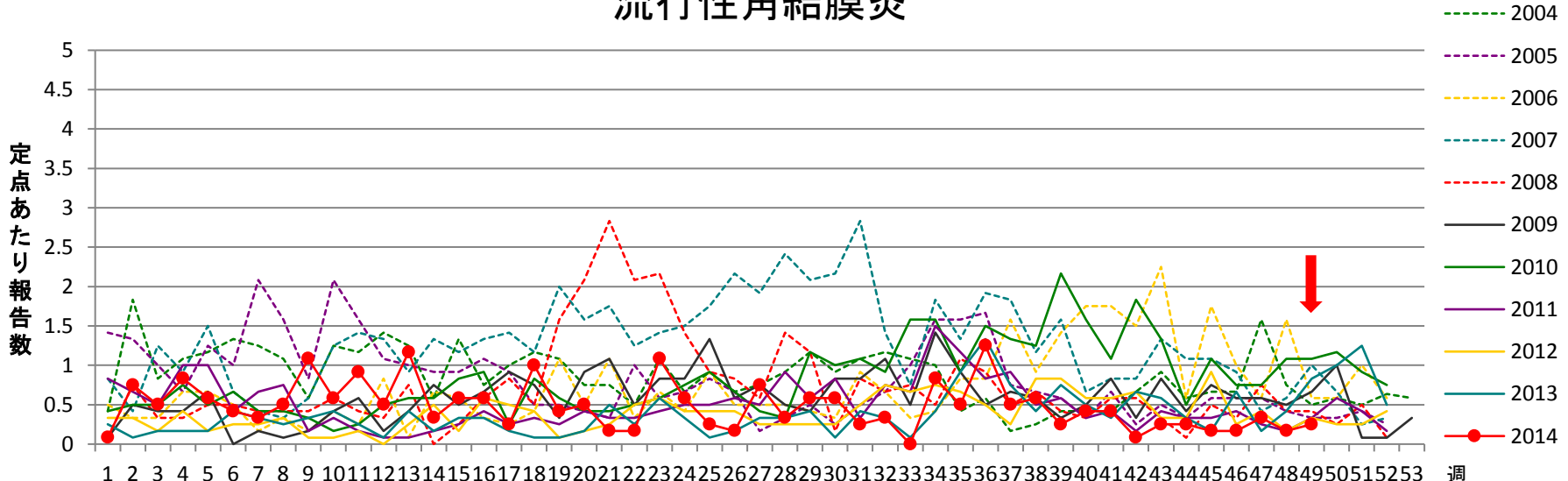
流行性耳下腺炎



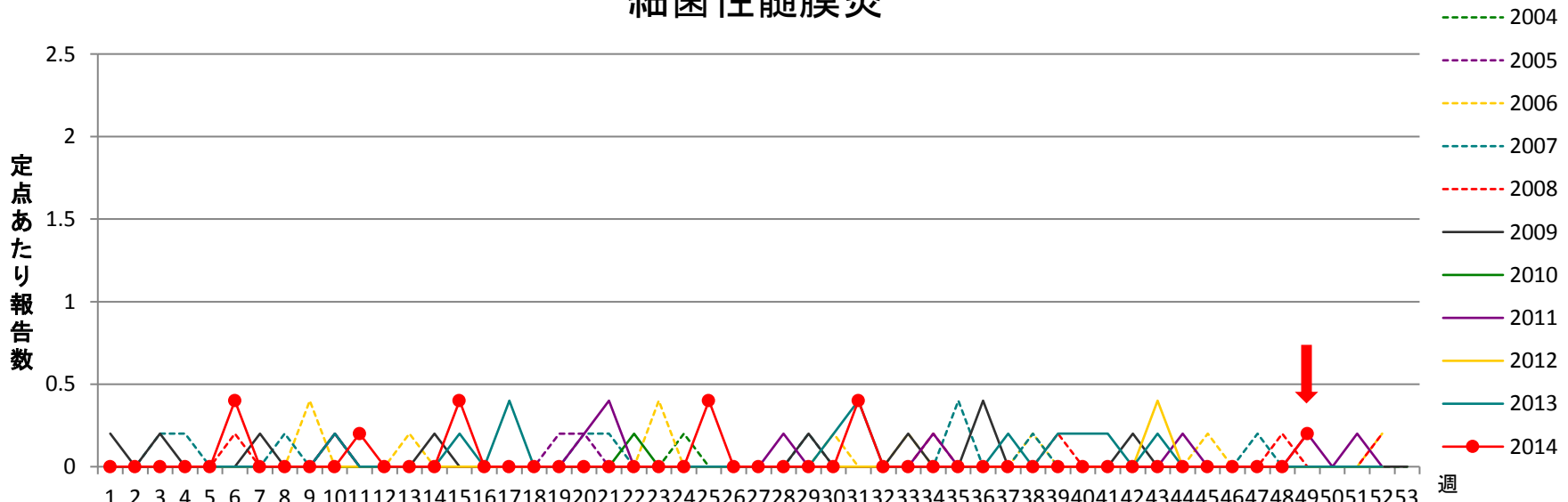
急性出血性結膜炎



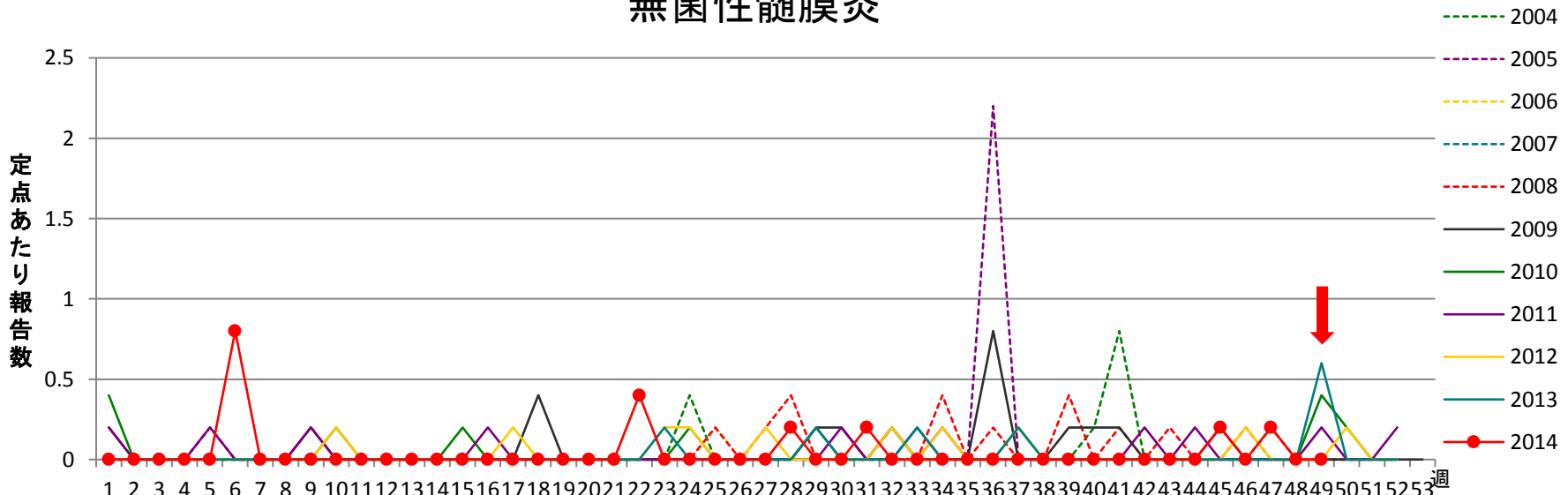
流行性角結膜炎



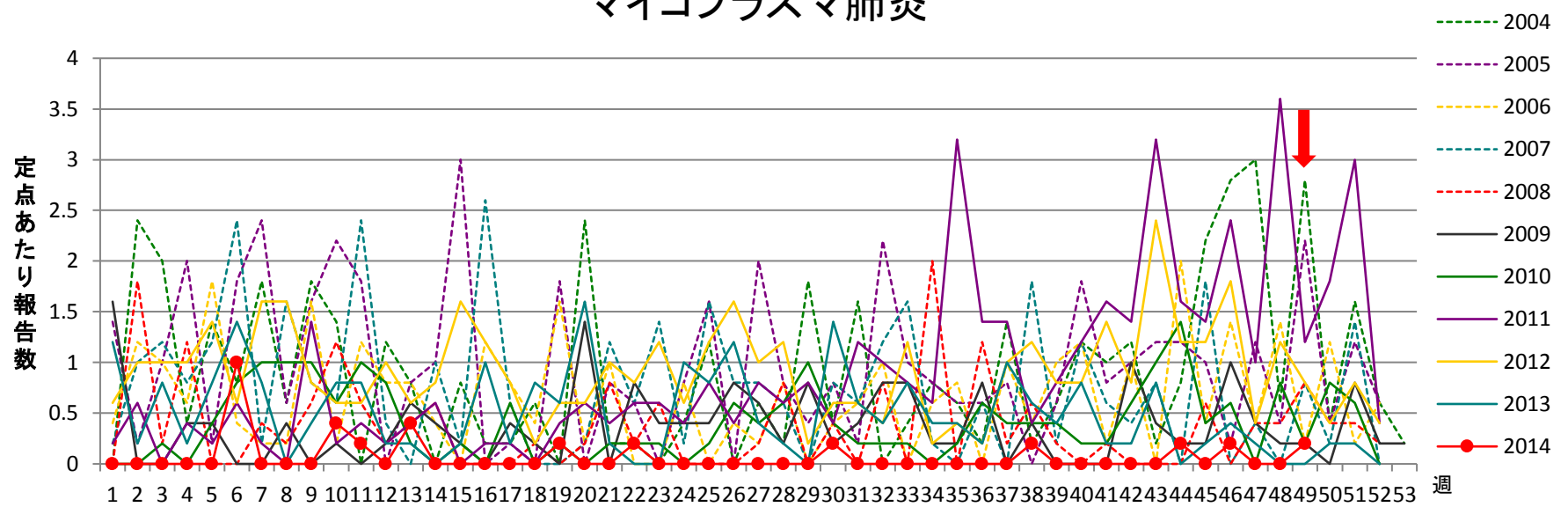
細菌性髓膜炎



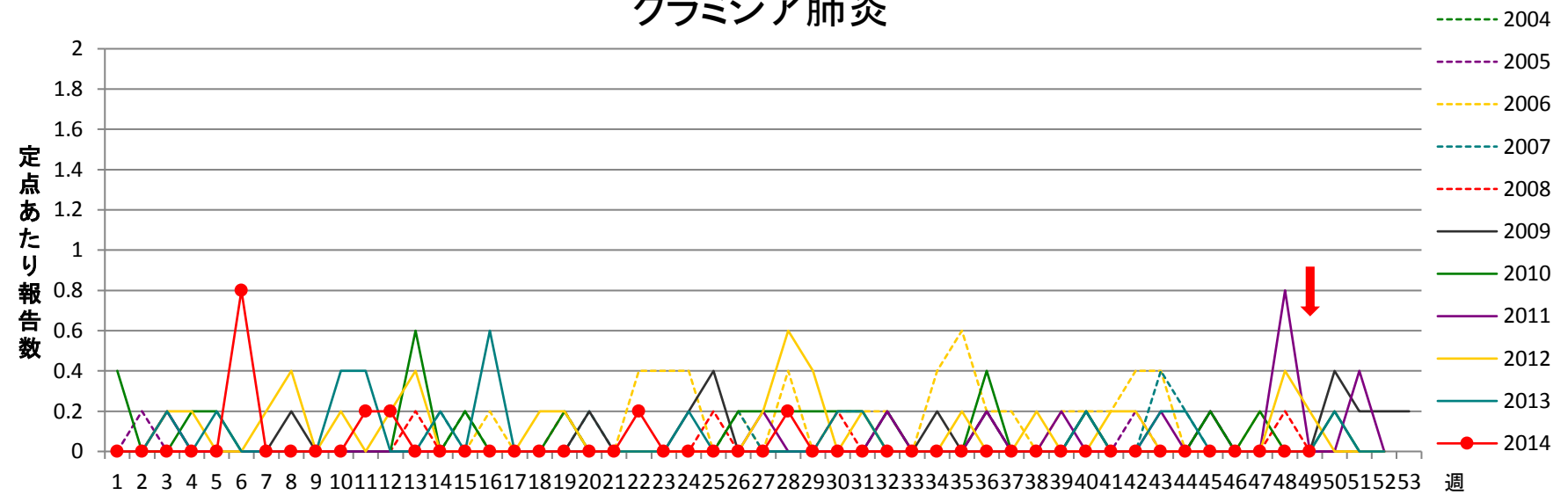
無菌性髓膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

